

同窓会報



豊橋技術科学大学10周年記念シンボルマーク

第 5 号

'88. 1. 15

豊橋技術科学大学同窓会

— 開学10周年記念シンボルマーク及び記念歌が決まりました —

開学10周年記念事業の一環として、学章及び大学歌の募集をしたところ、学内外から学章99点、大学歌20点と多数の応募がありました。

学内で審査委員会を設け厳正に審査した結果、今回はいずれも入賞作とはならなかったため、それぞれの準入賞作に若干の修正又は翻案・編曲を行い、開学10周年記念シンボルマーク及び記念歌とすることにしました。

なお、準入賞作品とその作者は次のとおりです。

- 学章の部
準入賞 小山 雅庸
(情報工学専攻大学院2年次)
- 大学歌の部
準入賞 「この丘に立ち」(豊橋技術科学大学の歌)
作詞・作曲 田辺 秀治
(桜ヶ丘高等学校教諭)
- 準入賞 「緑の大地」(豊橋技術科学大学校歌)
作詞・作曲 山下 行也
(昭和60年度物質工学課程卒業)

この丘に立ち 田辺 秀治 作詞・作曲

Moderato

1. がやくかぜが こころをたく
2. おおしいなみが こころをゆする
3. ささめくほしが こころをさそう

このおかにたらし せかいをみつめる ああ

いするひとと きぼうをかたためる さあ
いするひとに ゆうきをおくるため たあ
いするひとの こころをてらすため ああ

うもまたさちをみつげよう
ゆみなくちえをふかめよう
すもまたゆ

めをひろげよう ゆめをひろげよう

※これは〈準入賞作品〉に修正等が加えられた作品である

- 一、輝く風が心を叩く
この丘に立ち世界を見つめる
愛する人と希望を語る為
今日もまた幸を見つけよう
- 二、雄々しい波が心を揺する
この丘に立ち世界を見つめる
愛する人に勇気を贈る為
たゆみなく知恵を深めよう
- 三、ささめく星が心を誘う
この丘に立ち世界を見つめる
愛する人の心を照らす為
あすもまた夢を上げよう
夢を広げよう

緑の大地 山下 行也 作詞・作曲
大学歌審査委員会 監修
田辺 秀治

1. みどりのだいちに せはあつくひ
2. ほーのと おやまに くもほしろうくみ

ほりまら おかにつと いきてわれ
おはてしな さいら こささ われ

ら いさとしに あたなるりそう かかひ あ
ら いさこそり おおいな るほうもちあ

あ とはし ぎじ つかかくだいが く しん
あ とはし ぎじ つかかくだいが く きん

りの ひかーり こころにともめん
うの みやーこ こころにきずかん

※これは〈準入賞作品〉に修正等が加えられた作品である

- 一、緑の大地に風は熱く
雲雀舞う丘に集い来て
我ら いざともに
新たな理想掲げ
ああ 豊橋技術科学大学
真理の光 ここに求めん
- 二、穂の遠山に雲は白く
水脈果てしなき伊良湖崎
我ら いざこそり
大いなる抱負もちて
ああ 豊橋技術科学大学
希望の都 ここに築かん

表紙の言葉

青地に白ヌキの雲雀が二羽

雲雀は、もともと日晴と書いて「ひばり」と読んだという。青地の青は、どこまでも澄んだ青い空を表現している。また白ヌキの白は、青空のもとに映える本学の姿である。二羽の雲雀は、新たな技術と科学の創造に必要な、陽と陰の性質を表している。全体の形となっている円は、円運動を象徴したもので、安定、調和、無限を示す。(小山雅庸 作)

同窓会会員の皆様へ

豊橋技術科学大学同窓会名誉会長 学長 本多波雄

昨年、開学10周年を盛大に祝ってから、早くも1年が経過しました。その折には、同窓会から多大のご協力をいただきましたことを改めて御礼申し上げます。特に、記念事業の目玉の一つとなった同窓会名簿の編纂については、もっぱら同窓会の御力に頼りました。さらに、卒業生のデータベースも完成し、今後の管理の体制も整いました。

ところで、同窓会の発足から、その後の運営にわたって、大学側を代表して奮闘して下さった小林陽太郎先生が、本年3月、停年退官されました。長年にわたり、同窓会のために尽くされた先生のご労苦に対し、皆様とともに、厚くお礼申し上げたいと存じます。

同窓会会報には、毎号、大学の状況を書いておりますので、本号でも、前号以来の主な出来事について、簡単に述べさせていただきます。

62年3月、第6回大学院修士課程修了者として231名の工学修士と、第8回学部卒業生として289名の工学士を世に送り出しました。このうち、本学進学者以外は同窓会に加入しますので、TUT同窓会の全員数は1800名に近くなりました。

また、3月末日をもって、市川常男(第1工学系)、藤元克己(第2工学系)、小林陽太郎(第6工学系)の3教授が停年退官されました。3先生は、本学創設の初期の時代から活躍いただいた方々であり、そのご貢献に心から謝意を表すものであります。

4月に入りますと、新入生として、学部第1年次116名、第3年次246名、大学院修士課程255名、博士後期課程24名の入学者を迎えました。ちなみに、5月1日現在における本学在学者数は以下のようになっております。学部について、第1年次116(13)、第2年次103(4)、第3年次341(14)、第4年次338(7)、合計898(38)であり、大学院については、修士課程第1年次255(3)、第2年次255、合計510(3)、博士後期課程第1年次24、第2年次18(1)、合計42(1)であります。括弧のなかは女子学生の数であり、内数であります。その数が年を追って増えているのが

わかりましょう。工学の分野に女性の進出が目覚ましいのも時代の反映であり、頼もしい思いがします。

話が少し前後しますが、前号で申し上げましたように、昭和61年度より、大学院に博士課程が設置され、その前期課程には、従来の修士課程6専攻がそのままの形で残り(したがって、正確にいうと博士前期課程というべきでしょうが、慣例により現在も修士課程といっています)、その上に後期課程として、「材料システム工学専攻」と「システム情報工学」の2専攻が置かれました。昭和62年度には、全体計画に当たって、残っていた「総合エネルギー工学専攻」が設置され、3専攻よりなる後期課程が完成しました。

入学定員は各専攻6名、したがって、本年度の入学定員は、昨年より6名増えて、18名となりましたが、実際には24名が入学しました。多くの大学院で、博士後期課程は定員割れで悩んでいるのにくらべて、本学では期待通りに運営されています。

本学の重要な柱の一つに国際交流があります。その一環として、留学生の受入れを益々活発に行なっています。10月1日現在で、在籍者が46名、入学予定者が10名で、年度内には60名近くになると予想されます。このため、国際交流会館の増築が認められ、現在の20室に加えて、36室が増えます。留学生の国籍も17ヶ国にわたっています。政府は21世紀までに、留学生の数を、欧米なみに、10万人に増やそうとしています。現在の留学生は2万人程度ですから、なかなかの難事業です。10万人という数は、わが国の大学生の総数の約5%です。本学ではこの比較はほぼ達成してしまいましたが、今後ともその数を増やすとともに、教育内容はじめ、受入れ体制の充実を力尽くすつもりであります。

産学共同に関する活動もますます盛んです。本年度には一つの大きな出来事がありました。それは東海産業技術振興財団の発足であります。この財団の



主要事業は、本学をはじめとする東海地域の大学、公的試験研究機関、企業等の研究者を対象に、産業技術の基礎研究と応用開発研究とを助成することです。財団の活動の中心は豊橋であり、事務局も豊橋におかれます。したがって、助成の主たる対象も本学にあるものと期待しているところです。

最後に、鬼が笑うかもしれませんが、来年度のことを一つ紹介します。本学では、従来からある学部6課程に加えて、知識情報工学課程の新設を要求し

ていましたが、この会誌が皆様の手許に届く頃には、昭和63年度予算案のなかに盛り込まれているのではないかと、強い期待を持っております。

以上申し述べましたように、本学は創設の趣旨に沿って順調に発展を続けておりますが、これには同窓会会員の活躍が高い社会的評価を得ていることによるところが大きいのであります。本学教職員を代表して、皆様に敬意を表しますとともに、今後の一層のご発展を祈って私のご挨拶といたします。

学内近況報告

エネルギー工学系

北村 健三

卒業・修了生の皆さんお元気ですか? たまには研究室に現われて元気な姿を見せて下さい。さて恒例の学系だよりをお知らせします。今回は昭和61年9月~62年9月までの一年間の出来事です。まず教官の動きですが、任期制教官として赴任されておられた鈴木秀久先生が、昨年10月1日付で古巣の小山高専にお戻りになりました。入れ替り本年3月1日付で高松高専より石原弘一先生が赴任され、機械力学等の講義を現在担当されております。また3月31日をもって、市員常雄教授が定年退官されました。先生の長年に亘る研究・教育に対する御業績に対し、卒業生共々深く感謝の意を表したいと存じます。なお先生は御退官後も、蒲郡に新設された愛知技術短大でお元気に教鞭をとられております。また4月1日付で教務職員として、本学修士課程を修了された井田民男氏が新任され、大竹先生の許で研究・教育に活躍中です。

その他教官の現容を以下に列挙します。[第一講座] 教授:後藤圭司, 日比昭, 助教授:三田地紘史, 中川勝文, 北村健三, 助手:柳田秀記, 教務職員:古内正美, [第二講座] 教授:草鹿履一郎(系長), 大竹一友, 小沼義昭, 助教授:蒔田秀治, 岡崎健, 吉川典彦, 助手:鈴木新一, 教務職員:井田民男, 技官:森川正治, [第三講座] 教授:沖津昭慶, 竹園茂男, 本間寛臣, 助教授:石原弘一, 高木章二, 上村正雄, 大野信忠, 助手:埜克己, 畔上秀幸, 技官:神戸昌宏, [技開センタ] 助手:関東康

祐 以上皆さんが在籍されていた頃から随分変化があったと感じられると思います。学系全体をとっても本年4月に待望の大学院博士課程のうち総合エネルギー工学専攻が新設されました。現在定員一杯の6名が在籍しており、うち2名はエネルギー出身です。

修士、学部卒業生の就職状況ですが、本年は円高の影響もあって各社とも採用予定枠を減らしたため厳しさを増しております。しかし今年も全員希望通りの就職先に内定しそうな状況です。同窓会活動としては、来る10月10、11日一泊二日の予定で、一期生第3回めの同期会が三谷温泉松風園で開催されます。教官も何人が参加します。一期生に負けず二期生以降も同期会を開いてみては如何でしょうか? そのためには皆さんの正確な住所が必要となります。結婚、転勤、転職等で住所、勤務先が変わりましたら是非同窓会事務局または出身研究室まで忘れず御一報下さい。それでは、くれぐれも身体に気をつけて教職員一同皆さんの御活躍を心よりお祈りしております。

生産システム工学系

伊藤 公允

近況の概略をお知らせします。61年度から数年間の予定で1年次入学生が5名臨時増募されるようになり、それにともなう教官の定員増があり今年2月に北川孟教授が川崎製鉄から着任されました。計測システムを担当される予定で、3月末には材料加工システム研究室担当の藤元克己教授が停年退

官されました。その研究室は北川孟教授が担当されます。4月の定例異動では坂野武男教授が図書館長に岡根功教授が工作センター長にそれぞれ併任されました。接合加工研究室の助教授として京都大学から梅本実先生が着任され、精密加工研究室の鈴木裕助手は九州工業大学機械工学第2学科へ助教授として栄転されました。また工作センター助手の岡林真氏は無事任期を終えて古巣のアイシン精機(株)生産技術開発研究所へ戻られ、塑性加工研究室教務員の江崎尚和先生が工作センター助手に昇任配置換えになりました。

6月には精密加工研究室の堀内幸助教授がクランフィールド工科大学(イギリス)における10カ月の留学を終えて帰国されました。その他先生方の海外出張も例年通り盛んであり、留学生・研修生もタイ、インドネシア、ベネズエラ、スイスなど多彩である。

最後に、卒業生諸君の一層の御活躍を心から期待しております。

電気・電子工学系

小 崎 正 光

1986年の末に登場した高温超電導物質は、電気・電子工学の将来を揺さぶるようなインパクトを与えております。巨大マグネット、発電機、変圧器、電力貯蔵、ケーブルなどのエネルギー機器あるいは電子部品への超電導応用がたとえば液体窒素温度で可能になれば、確かに画期的な技術革新が起るでしょう。物質がはやく材料(線材、薄膜、テープ材などに)になることが期待されております。電気・電子工学系の研究テーマの中にも従来から液体ヘリウム超電導導体関連のものが取上げられておりましたが、ここに至って高温超電導にも照準を合せてきております。野口・太田研究室では高温超電導物質に関する基礎物性研究、小崎・長尾研究室では液体窒素温度作動を想定した超電導電力機器の基礎研究に勢力的に取掛かっています。21世紀には実現する可能性は十分にあると考えられます。皆さんの仕事に直接関係が出てくることもありそうですからこの話題から目が離せませんね。

同窓会報第4号に載せた電気・電子工学系教官名簿からの異動をお知らせします。基礎電気・電子大講座に渡辺純二助手(大阪大学博士課程)、井上

雅彦(大阪大学博士課程)、また、電子デバイス大講座に高野泰助手(静岡大学博士課程)、斉藤洋司助手(慶応義塾大学博士課程)が赴任されました。昇任は朴助教授と河本助手です。5年間に亘り電システム大講座で活躍された東山助手が8月に山形大学に転出されました。

後期博士課程も完全に設置されていよいよ研究体制は充実されてきており、教官も学生・院生もともに頑張っております。気軽に母校を訪ねて来て下さい。

情報工学系

田 所 嘉 昭

卒業生のなかには、そろそろ自分の子供をあやしている方も多いことでしょう。そして、親の苦勞を身にしみて感じているのではないのでしょうか。母校のことも時々思い出して顔を見せて下さい。

その後の情報系の様子をお知らせ致します。教職員の構成は、次のとおりです。計算機大講座 [教授: 楠菊信(系長), 大岩元, 助教授: 飯田三郎, 中川聖一, 今井正治, 講師: 湯浅太一, 助手: 河合和久], 情報処理大講座 [教授: 河竹好一, 阿部健一(系長補佐), 白井支朗, 助教授: 橋口攻三郎, 斉藤制海(併), 辰巳昭治, 講師: 榊原学, 助手: 村瀬一之], 情報システム大講座 [教授: 秋丸春夫, 宮崎保之, 田所嘉昭, 助教授: 田中正興, 講師: 山家光男, 助手: 山田晃, 後藤信夫]。会報4号からの主な変化は、情報処理に名古屋大学環境医学研究所から生体関係の研究がご専門の榊原先生を去年の11月よりお迎えしたこと、計算機に京都大学数理解析研究所からソフトウェアがご専門の湯浅先生を今年の10月よりお迎えしたこと、今井先生が助教授に、田所が教授に昇進したこと、斉藤先生が技術開発センターの助教授になり、技科大の顔として活躍中で、情報系を併任なさっています。技科大のもう一つの顔であった、平井誠教務職員は、大阪大学産業科学研究所の北橋教授の下に、助手として栄転されました。山家講師は、61年11月より英国グラスゴーのストラスクライド大学に出張中のところ今年の8月末に帰国されました。村瀬助手は4月から来年の2月まで米国アイオワ州立大学に、後藤助手は8月末より一年間、カナダのマーギル大学に出張中です。その他、諸先生も海外、国内

で、活発に活動しております。今年4年を卒業した村上聖君は、青年海外協力隊員として、リベリア共和国へ高校の数学教師として二年間派遣されました。皆様で健闘を祈りたいと思います。

来年4月には、皆さんの職場に、また、新しい技科大卒の同窓生が行かれると思います。よろしくお願い致します。健康に留意して、益々ご活躍されんことを祈っております。

物質工学系

吉 村 忠与志

私は、昭和60年8月1日付で任期制教官として福井高専から参ったもので、早その任期(2年8ヶ月)も過ぎようとしています。福井高専出身者はなつかしく思ってくれると思いますが、他の方にとっては、彗星が本学に飛んできたことすら知らずにいると思います。

ところで、学生生活委員の仕事として、この会報で物質工学系の系内近況を報告することになっているので、移動の様子を列記します。

- (1) 亀頭先生がアメリカに6月に留学しました。帰国は63年5月だそうです。
 - (2) 北野先生が8月に退官されて、ポリプラスチック(株)(富士市)に移られました。
 - (3) 鈴木先生が3月に東レ(株)から教授で着任されました。
 - (4) 角田先生が10月に分子科学研究所から助教授で着任されました。
 - (5) 立木先生が9月に西ドイツに留学されました。
 - (6) 前田先生が8月にフランスから帰国されました。
- 以上が系内の人事の移動状況です。

佐々木副学長らの努力により、来年に知識情報工学系が誕生することになっており、その一核として物質工学系の化学情報学研究室がごっそり移動するそうです。新しい系ができることもうれしいのですが、化学系の学生を育てていく中で、コンピュータケミストリーを専攻する研究室がなくなるのは大変残念で、私にとっても心残りです。

私は63年4月から福井高専に戻るようになっていますが、この2年8ヶ月間の豊橋技術科学大学で教鞭をとったことを誇りに、福井高専に集まる学

徒のため今後頑張っ参りたいと思います。そしてそれが技科大へ優秀な学徒を送り出せる源となるよう努力してゆきたいと願っています。

卒業生の皆様、化学PC研究会(化学の分野でのパーソナルコンピュータ利用を考える学会)の活動に触れた時、私の名前を思い出していただけたら幸いです。

最後に、身体を大切にますますご活躍されんことを、教官一同、心から期待しております。

建設工学系

加 藤 史 郎

昭和62年3月に小林陽太郎先生が御退官されてからの教室の動きを紹介します。

4月に環境・交通工学が御専門のD.J.ピクター先生がインドから赴任され、英語で講義をされています。3月に講造工学講座の由井先生が御退職になり、東洋エンジニアリングに栄転され技術の第一線で活躍されています。後任として、第4回修士修了の新納格先生が4月に助手として入職され、大いに奮闘しておられます。10月には、小林先生の御退官のあと、本間宏先生が教授に昇任され、澤地先生、大学院生とともに、研究・教育に幅広く発展をつづけられております。

昭和61年に発足した博士課程には、今年の4月、システム情報工学専攻に片田敏孝君(昭和60年3月修士)、高島英幸君(昭和62年3月修士)、総合エネルギー工学専攻に山田守君(昭和60年3月修士)が入学され、昨年入学の僧理栄司、田中勝、角舎輝典の諸君と研究に励んでおられます。

建設工学関係の受賞者を紹介します。昭和62年4月には、横尾義貫先生が、長年に渡る御研究・御業績により勲二等瑞宝章を受けられました。同窓会の折、豊橋・名古屋・東京で祝賀会がもたれました。5月には、小野木重勝先生、三宅醇先生が日本建築学会論文賞を同時にお受けになられ、秋の建築学会(10月)には、それぞれの御専門で、特別講演をされました。各種の建築コンペでは、同窓生も既に御承知の通り、多くの受賞者が、大学院生、学部生の中から出ています。慶賀の至りであります。

昨年は、本学開学10周年でしたが、これからは、20周年を目指し、教職員も努力を続けております。建設工学系もいよいよ充実し張切っています。

す。同窓生の皆さん、遠慮せず、母校を訪ねて来て下さい。卒業生、修了生の益々の御発展を祈っております。

第七学系

富田 弘

「知識情報」が第七工学系として新設(63年度)されれば、われわれは第八学系と名称を変更するので、これが最初にして最後の便りとなる。

正に必要な時に必要な知識は欠けているものだ、とは既に十八世紀にゲーテが『若きヴェルテルの悩み』の中で主人公に言わせていることばであるが、きっと卒業生諸君はこうした思いをしていることであろう。「もっと勉強しておけばよかった」、これも痛感していることだろう。過去のある状況での判断が現在の多少なりとも「進歩」した状態での点検に悔恨と無知の自覚をもたらすのは当然のことであって、その後悔の深さだけ「成長」したことにもなっている。人は幻想をエネルギー源とし、悔恨をビタミン剤とするものだからである。根底に己の無知を知覚する人は「知者」となりうる人である。無知だから知ろうとし、幻滅の悲哀を乗り越えて、もう一度希望を持とうとする。もしこういうことを感じてくれるなら、わが豊橋技術科学大学の教育は成功したこととなる。もし卒業生諸君

退官教官より

※この原稿は、大学(学生課)の協力により「天伯」,「雲雀ヶ丘だより」から転載したものです。

退官にあたって

副学長 古屋善正



私は本学に奉職する以前は高等専門学校におりましたのでその頃からの私の関心事は高専・技科大による複線教育体系をいかに充実・発展させるかでありました。従って本多学長先生から本学へのお話がありましたと

が、われこそは知者なり、なぞと自惚れていたとしたら、豊橋技術科学大学はクソクラエであり、一日も早くその滅亡、殲滅、解体のために努力するのが当方の義務となる。

アメリカの話しであるが、大学を出たとは、

1. 個性的であること
2. 物事に批判力を持つこと
3. 立派な国語で思想を表現できること
4. 倫理、道徳の問題について深刻に考えた経験を持つこと

だそうである(松山幸雄『しっかりせよ、自由主義』1982年、朝日新聞社)。ただし、これは現実にそうあるのではなくて、理想論だそうである。今年日米の教育の比較の報告書が出た。データベースの情報量の増加に努める日本の教育とあわせて考えてみて下さい。「探求力・論理的思考力・批判的分析力」、「読み、書き、話し、聞く能力」、「数量的データの理解力」、「歴史意識」、「科学」、「価値」、「芸術」、「国際的・多元文化的経験」、「深い(専門的)学習」の9つを要件とする見解もあれば、「深さ」、「広さ」、「統合性」、「学習技能」の四項目を掲げる意見もある。さらに、「考え、書く能力」、「自然、社会、人間の理解」、「異なる文化への理解」、「倫理」、「特定分野の深い知識を強化」を大学教育のキーワードとする改革案もある。経験を土台に考えてみて下さい。

きこの問題についてお手伝いできればと思って自分の非力を忘れてお引受け致した訳であります。以来この3年間を振り返ってみますと私は何一つ満足なことができませんでしたが、本学の教職員各位の絶えざる努力と文部当局をはじめ外部団体からの支援によって念願の博士課程の設置が達せられたことと創立十周年を迎え本学のすばらしい充実・発展ぶりを目の当りにすることができたことは望外の喜びでありました。

本学を去るにあたって、教育・厚生補導担当の副学長としてこれ迄考えておりました点を述べ今後についてお願いをしたいと存じます。先ずその第一は

技科大と高専との連携についてであります。本学の十年史(Ⅱ, 創設の時代)に述べられているように、教育機会の拡大と実践的技術教育を目指した複線教育体系が従来の単線教育体系に平行して発足し、高専に続いて技科大がそれぞれすばらしい発展をとげ、今回の博士課程の設置で体系が完結したのでありますが今後この教育研究体系が更に充実・発展し、一そう多くの優れた人材を社会へ送るようになるためにはこの体系の特色を生かし、高専と技科大の連携を高めることが必要であります。例えば高専から優れた学生を編入学させるため、実践的技術教育の評価(単位の換算)や推薦選抜(書類選考)において高専との連携を緊密にした結果、推薦入学志願者の約9割が入学している事実は一般大学にはまねすることのできない利点であります。技科大と高専とは別の組織であります相互の人事交流を盛んにすることによって連帯感を高めることが重要であると思います。今後高専教官の本学における研修機会の増加、任期制教官の定常的な採用、本学教官・卒業生の高専教官への転出などについて積極的な配慮をお願いしたいと思います。

次は本学の教育についてであります。技科大は高専で完成教育を終った者がより広く、より深く学ぶための継続教育の場でありますから他の一般大学よりも継続教育に適した態勢となっています。従って1年次から大学院まで本学に入る学生の教育経歴も多様であります。そのうち特に社会人の継続教育については企業等で身につけた能力や経験を積極的に評価・活用することによって履修期間の弾力化や就学年数の短縮化を考えて行くことが技科大の今後の発展にとって重要なことであると思います。一般に継続教育の持つ特色は先ず学生の目的意識が明確で学習上の無駄が少ないため学業の達成度が高いことでもあります。本学の場合これは3年次の推薦入学の学生および社会人の継続教育の場合によく当てはまります。一方継続教育の問題点は学生の基礎学力が不揃いのため基礎科目の授業で同じレベルまで学力を向上させるには教官あるいは学生の負担が増すことですが、学生は以前の教育で得た別の優れた能力の助けをかりて不十分な点を補うことが多いのであります。本学の場合も学部の基礎科目がこれに当てはまるため、カリキュラム上の配慮がなされておりますがそれでも学生にゆとりを持たせるような教育方法をとって頂くことが大切であります。この場合教育のあり方が問題となりますが学校教育の役割から考えますとそれは大別して文化の維持・伝達と文化の更新・進歩に分けられ、前者は知識学習に後

者は創造力に重点が置かれます。大学院大学である本学では後者に重点を置いた教育方法をとりますので、学生は学部における基礎学力の不十分な点は後の研究活動に入ってから各自が必要とする部分についてより深く学習の方が有効であると考えます。

以上、本学の発展を願う気持ちから申しましたが、自分勝手な点は、何とぞお許し頂き度く存じます。

最後になりましたが私が本学に在任中は教職員の皆様大変親しくして頂き、長い公務員生活の終りに、これ迄にないすばらしい毎日を過させて頂きましたことは誠に幸せでありました。高齢になっても優れた方々の中で継続教育を受けることの大切さを身をもって悟った訳であります。健康上の理由からご迷惑をおかけしたにもかかわらず温かいお気づかいを頂きました本多学長先生はじめ教職員の皆様心から御礼申し上げます。

学生諸君への期待

エネルギー工学系(第1工学系)

教授 市川常男



私は昭和20年に大学を卒業してから、40年余り大学で教育研究を行って来た。若い学生諸君から見ると、40年という歳月は非常に長いと思うであろうが、私の実感としてはあっという間に過ぎて了った気がする。文字通り「少年老い易く学成り難し」の感である。

人生は長いようで短い。充実した毎日を送ることによって、悔いのない一生を過ごすことを諸君に期待したい。学生時代はもちろん学業が中心であるが、広い読書によって幅広い知識と教養を身につけてほしい。一人の人間の持ち時間は有限であり、経験できることにも限界がある。古今東西の先人の思索、経験に基づく叡智の結集された良書に親しみ、そこから多くのものを吸収することによって、極めて効率的に諸君の人間性を豊かにすることができるのである。これからの指導的技術者には、高い教養と知性、幅広い視野が要求されている。

日本の文明の歴史を回顧して見ると、文明は中国から、またはさらにその西のインド、ペルシャ、ギリシャ、ローマ等からシルクロードを経て日本に伝わって来た。日本は極東のはずれの国であったので、伝来した文明は日本で行き止まりとなり、そこで熟成して固有の発展を遂げたが、日本から先へ伝

わって行くことはほとんどなかった。すなわち日本は先進文明国から文明の恩恵を受けるだけで、浮世絵が西洋美術に与えた影響などの一部の例外を除いて、国外への文明の輸出による人類への貢献はほとんど見られなかった。

明治以降の科学技術についても全く同様である。ほとんど欧米からの科学技術の導入によって、今日の日本の発展をもたらしたのである。欧米から輸入した技術を改良し、応用研究と生産性の向上によって、安く良いものを大量に生産し、欧米諸国に逆輸出し、貿易摩擦も生じている現状である。

このように、今までは外国の文明、科学技術の導入によって、日本人の生活を質と量の両面で豊かにして来たわけである。すなわち日本は外国の文明、科学技術の恩恵を多分に受けているが、逆に世界の文明や科学技術等、人類の進歩と福祉に貢献する面については、従来余りに少なく、いわば一方通行であったと言える。これからは、世界を日本の工業製品の市場とする考え方からの発想の転換が必要である。

したがって科学技術についても、今後は自主的、創造的な研究開発によって、世界の科学技術の進展に寄与するとともに、技術輸出と独自の製品の輸出に重点をおくことが要求されよう。本学は創造的技術者の育成を目的としており、学生諸君のこれからの努力に期待したい。硬い頭脳からは創造的研究は生まれにくい。若い諸君の頭脳は柔軟なはずであるが、さらに広い読書によって視野を広くし、あらゆる角度から物事を観察、検討できるようになってほしい。そしてユニークな発想による創造的な研究開発のできる研究者・技術者として大成することを期待したい。

学生諸君への別れの言葉

生産システム工学系 (第2工学系)

教授 藤元克己



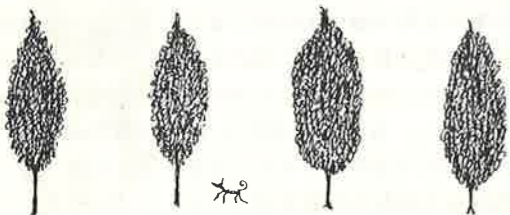
私はこの大学では専門分野を鉄鋼材料としてきた。ここに移る前に製鉄会社に三十数年勤めたというだけの理由からである。本当は自然哲学としたい所だが、それでは誰も認めてくれないであろう。会社時代に数多くの鉄鋼材料を取扱ったが、その中で珪素鋼という変圧器の鉄心に使われる材料が最も印象に残っている。そこでこれを退官講義で上げることとし、題目を「珪素鋼物語」とした。「物語」と称するのはこの材料に関与した人々の人間的側面を主とし、冶金学的解説を従としようと考えたことによる。

X線回折の Bragg の式 ($n\lambda = 2d\sin\theta$) で有名な Sir W. L. Bragg (1890-1971) は科学を珊瑚礁に譬えている。「珊瑚礁では表面の生きている珊瑚が礁の成長をつくりだし、その下ではずっと以前に死んだ珊瑚の遺骸 skeletons の何十百尺の堆積がそれを支えている。珊瑚礁の生命がその表面にだけあるように科学の生命もその frontier にのみ存在する」と。私はもう大分以前から研究者の skeletons に仲間入りして研究活動からは遠ざかっており、この最終講義も先輩の skeletons が嘗てどのように活動してきたかという古い話になったが、珪素鋼の歴史が物語る新製品・新技術の研究・開発の要諦に他の二、三の逸話を加えて別れの言葉にかえたい。

科学や技術の世界では斬新な idea が大切であることはいうまでもない。多くの人が行き止まりを感じて疑われないとき、それを突破する idea は人が棄てて顧みない失敗や偶然の中から得られる。この場合自分自身の体験は最も貴重である。他人の経験はできれば本人から直接聴くのがよい。それができないときは文献に頼らざるを得ないが、その折でも第3者の引用や解説でなく本人が執筆した原論文を参照することが望ましい。

ところで idea が浮んだとしても、idea を閃かせただけで解決できる問題は少ない。近代的 Oriented R & D の研究所を創設した Thomas A. Edison (1847-1931) の人口に膾炙した寸言：

The ability to invent is 2 per cent inspiration and 98 per cent perspiration.



よろこびを持って退官します

体育・保健センター長、建設工学系 (第6工学系)

教授 小林陽太郎



1978 (昭和 53) 年 6 月 20 日、雲雀ヶ丘だより・創刊号に私は次の詩を引用しました。

「荒野とうるおいなき地とは楽しみ、砂漠は喜びて、サフランの花の如くに輝かん」(旧約聖書イザヤ書 35:1)

春疾風拓きゆく人それぞれに

青陽

私は、本学の創設の時にめぐり合わせ、多くの地域から馳せつけられた、教官・事務官・学生方と、開拓のきびしさよよろこびを身をもって体験することができ、他では味わえない多くの喜びを共にすることができました。

○第1回入学生を迎えた第1年目

入学式を待望した1・3年次学生は張り切っていた。建設工学課程の入学生諸君には、2~3年から5年間待って入学した者がいた。

大学でもっと深く学びたいという「飢え」と「渇き」を持って来た学生諸君の熱意は凄かった。これが本当の勉学の欲求というものであったのだ。

実験装置も器具もない。総てを、教官、学生が一諸になって作っていった。まさに実践的の大学であった。「目的意識と Vitality を買われて入学して来た新構想大学の第1回入学生」に対して榊学長は「チャンスをつかんだ者は折角のチャンスを枯れさせないで、ホームランでも打つように強くなってほしい。また、力ある者は弱き者を助け、その重荷を代って背負いつつ共に人生を歩む。これが力ある者に課せられる使命である」と話された。印象深い告辞であった。

忝幾多先達厳教 幾多先達の厳教を忝くし
華甲別離出舊郷 華甲別離し舊郷を出づ
風光鷄舞天伯原 風光り鷄舞う天伯が原
迎穎哲俱探真道 穎哲を迎え俱に真道を探ねん。

青陽

華甲=還暦の年、穎哲=秀れた人々

○走り続けた9年間

昭和53年4月3日夕方、私は1人でキャンパスの外周を走った。少数ランナーの1人だったと思う。タイムは18'00"、その後9年間のベストは17'40"だった。私の研究室で外周ランニングの目

はこのことを見事に喝破している。Idea を具体化すべく仕事をはじめると、予期し得なかった現象が次々とあらわれて予想を遙かに上廻る時間と費用を要することが屢々起こる。新しいことに対して困難と反対はつきものであり、それらを克服して idea の誕生から商品化に至る長い道程を一步一步前進するには強靱な体力と不屈の精神力が要求されるのである。

材料の開発の場合には材料自体だけでなく、それを使用する機器の改変にまで手をつけて需要家を納得させなければならず、その分野の人を説得し協力を得ることが不可欠である。また関連技術分野の進歩が発明の実用化を助ける。従って研究者は広い視野の知識・情報に常に接触を保ち配慮を怠らないことが大切である。然し一般に専門を異にする人と話合って正しく情報を交換することは実は容易でない。Otto Hahn (1879-1968) の自伝によれば、彼と Max von Laue (1879-1960) は長年の親友で若い頃ベルリンの大学の物理研究所で毎週水曜日に開かれる談話会で会っていたが、それから50年の後に Laue は次のように告白したという。「親愛なるハーン君、今はじめて君が何をやっているかがやっと解った。これまでは君の仕事を正しくは理解していなかったよ」と。この話から他人が専門としない領域では相手に余り多くの理解を求めたり想定したりしては不可ないことを知るべきであろう。

才能ある人でも一生の間に好運に遭遇する機会はそれほど多くはない。しかしポーランドの諺：

Even a clock that is not going is right twice a day.

がいうように凡人にも必ず機会は訪れる。そのときに間違いを恐れぬ勇気と粘り強い精力の集中の有無がその人の価値を決定する。Johann J. Balmer (1825-1898) はバーゼルの高等女学校の教師、後には併せて大学の私費講師として平凡な生活を送り、靈感をもつ数学者や緻密な実験家というより寧ろ自然の中に調和を見出す夢を抱いた設計家とも評されているが、その生涯に物理に関しては論文を3編だけ発表した。最後の論文では誤りを犯したが、初の2つの論文(水素のスペクトル線に関する)が彼の名を物理学史上不朽のものとしている。

それでは、若い学生諸君の将来に好運の女神が微笑むことを祈り、そのとき諸君が奮起一番することを期待して、老教師はこの大学から消え去ることにしよう。ご機嫌よう。

標を提案した。20歳代…12分代 30歳代…13分代 40歳代…14分代 50歳代…15分代 60歳代…16分代。これを破った者は、20歳代だけだったと思う。タイムはともかくとして、ランニングをやったあとは、さっぱりしてとても爽快である。一方大変経済的である。消費するのは汗だけであるから。しかし心身の健康には大変有効であった。

第1回の創立記念日、10月1日には第1回の学内駅伝大会が開かれた。実は私は初夏の頃から駅伝をやれと、建設の鈴木寛太郎君や安田先生に勧めていたから、最初のアイデアは私が提案したといっても過言ではないと思うが？実は私も走ろうと思っていたからだ。鈴木君が、自ら委員長になって始めようとしたので、私は、提案するのはよいが、委員長になるのは、有志にしろ出席者が諒承し、支持してくれて、始めて実施するのがよいと助言したことを覚えている。

当日は快晴で、午前開学記念式典、午後祝賀会のあと駅伝となった。珍しく、A棟東側のスタート・フィニッシュ点からは富士山がよく眺められた。私がアンカーを走った。榊学長先生と看護婦の福井さんが走り寄って下さって「大丈夫ですか」といたわって下さった。こういう光栄はもう一生味わえないことだろうと恐縮しました。

○自転車通学の壮快さ

9年間のうち、最後の2年間余は真夏も真冬も、雨以外では努めて自転車で通った。北山の宿舎から25±2分。大学から西駅まで45±3分。汗をかくので、研究室や鞆の中にシャツを持ち、時々新幹線の中でも着換えると実に壮快である。

野菜や花、青空や満天の星を眺めながら通うのは、豊橋ならではの至福である。

白菜地藏並ぶ乾土を生命とし 青陽
皆様と共に過ごせた9年間は誠に愉快でした。深く感謝し、本学の御発展を祈念致します。

開学10周年記念歌……番外編／豊橋技科大音頭 山下行也 作詞・作曲 田辺秀治 監修

1. はるはよ さくらふぶきがまいちるみちをよ
2. なつはよ てづつはなびがドドンがドンをとよ
3. あきはよ ほらいこうらんいーろをそめてよ
4. ふゆはよ かぜがピューピューふきくるみちをよ
5. いつでも ゆめときぼうはわーすれま いぞよ

にほんじゅうからわかーもーのがあつーまってくる
ほしのよせらにゆーめーとーはなーとーちーる
ほしいこまれそなあおいそーらはすみーわーたーる
こごえそなでアクセルにぎりまなびやへとゆく
ひねをはーつてこーのにおーかをすだつまーでーは

とーいはまなはきょうもにぎわうあらいもべんてんも
はるかいこはよーねのゆきさききょうもみちびいて
かゐてあこはとよたんあいたんそれともこっかんか
りよーてあわせいーのさーきはとよわいーなりか
よるにおーかをなげりきよーもあかりがとーもーる

はうのの
なみこの
いこのの
かぜのの
めこのの

とよはしーごかだいいんどだよ

あーだらいーだらこーだらそーだら
あーじんいーじんこーじんそーじん
いくまいやるまいするまいせーまい
とよほもどほかもどほもどほもどほも
きょうじもじょーじもがくぼもマスターも

どんとやーれ

1. 春はよ 桜吹雪が舞い散る道をよ
日本中から若者が集まって来る
遠い浜名は今日もにぎわう 新居も弁天も
花の豊橋技科大音頭だよ
それ あーだら いーだら こーだら そーだら
どんとやれ
2. 夏はよ 手筒花火がドドンがドントよ
星の夜空に夢と花と散る
はるか伊良湖は船の行先 今日も導いて
海の豊橋技科大音頭だよ
それ あーじゃん いーじゃん こーじゃん そーじゃん
どんとやれ
3. 秋はよ 風来香風色を染めてよ
吹い込まれそう青い空は澄みわたる
可愛いあの娘は豊短 愛短 それとも国看か
恋の豊橋技科大音頭だよ
それ 行くまい やるまい するまい せーまい
どんとやれ
4. 冬はよ 風がピューピュー吹き来る道をよ
凍えそうな手でアクセル握り学び舎へと行く
両手合わせて祈る先は豊川稲荷か
風の豊橋技科大音頭だよ
それ どあほも どばかも どいつも こいつも
どんとやれ
5. いつでも 夢と希望は忘れまいぞよ
胸を張ってこの丘を巣立つまでは
夜に丘を見上げりゃ 今日も灯りがともる
夢の豊橋技科大音頭だよ
それ 教授も 助手も 学部も マスターも
どんとやれ

Free Talking 同窓会員各地の便り

(会員番号は以下に示す通り。
6桁 → M: 修士修了 B: 学部卒業 3桁 → 所属工学系(1-6)
5, 4桁 → 修了・卒業年(西暦) 2, 1桁 → 通しナンバー)

近況報告

B80301 荒川 治夫
常陽三協電機(株)

M83213 成松 常男
大分工業高等専門学校

卒業して五年、現在母校の大分高専に勤務しています。高専生と教官、両方の経験です。講義や生活指導を通して、高専教育の難しさが分かってきました。高専生の学力向上や学習意欲の高揚、カリキュラム再検討、学科増設、学寮の生活環境改善など問題が山積されています。私は熱工学関係の講義を担当しています。講義の準備が不十分だと、説明が途中で出来なくなることもあります。一般に高専生は、考えて問題を解決しようとする姿勢が欠けているように感じられます。また私の高専時代と学生気質も違ってきています。学生達に豊橋技科大の紹介をよくしますが、技科大進学への関心は余り高くない状態です。同窓生の方々の一層の御活躍で技科大の社会的評価が上がることを期待します。

技科大卒業生の多くは、企業で技術の最先端の仕事をしていると思いますが、私も少しづつですが研究をしています。大学の研究室にも年二度は出張し、指導を受けています。高専で雑務に追われる生活に流されがちな私には、研究室の雰囲気はとても良い刺激になります。また大学も新しい先生方や施設が増え年々充実している様子で、高専から内地留学もしたいと思っています。夏休みは自分の研究時間が持てるので学生以上に待ち遠しいです。

高等の勤務では一般社会人と付合う機会が少いので、体を動かすことが好きな私は、テニスや社交ダンスなどのサークル活動で人と交流するようになっています。でもお嫁さんになってくれそうな人にはまだ会えません。寮やアパートの生活も十四年目で、掃除、洗濯、炊事は上手になりました。

最後に、皆様の職場に大分高専の卒業生が就職したときは、御指導よろしくお願ひします。お互いに体に気を付けて頑張りましょう。

豊橋技科大同窓会会員の皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。私は、現在、少し疲れ気味であります。この10月20日付で、前の勤務先を退職して翌日から父親の経営する会社に行き、現在、見習いの状態です。今までと違い、片道45Kmの自動車通勤の緊張やら、人と会って話をしなければならぬことや、環境に順応するまでのストレス状態にあるわけです。この原稿を書かなくてはならないことも、休日にゆっくり休めない原因のひとつであります。(実は、締め切り日を半月も過ぎています。)

このような状態においては、将来のことを考えるべからずというアドバイスを、かつて富田教授がおっしゃっておられました。今はそのアドバイスに従うべきだと思っています。ゆっくり休んで元気になるれば、よい考え方で生活できるでしょう。もう少しがまんするしかありません。

同窓会会員の方で、私と同じく疲れている方はいませんか。疲れたら、少しずるくなりましょう。特に、仕事の事などで悩んで疲れるのは愚かなことです。今、退職するとして、その退職金を調べてみてください。あなたは、その程度の金額にしか、客観的には評価されていないのです。という風に考えて、気楽に行きましょう。私も少し気楽になりました。

「退社」

M82327 山口 利幸
和歌山高専

「シャープを退社します。」私がそう言ったのは昭和60年5月のことである。昭和57年に入社してから3年余りが過ぎていた。当時、私は中央研究所に勤務し、Si基板上にGaAs太陽電池を形成するという新タイプの太陽電池の研究開発に従事していた。宇宙用太陽電池の唯一国内メーカーであつ

たシャープにとって、この太陽電池の開発は、最近同分野に参入してきた某社に対抗する方策の一つであった。当然、某社もそれに対抗してきた。国外機関も含めて熾烈な開発競争が続いた。シャープが一步先じたかに見えたが、形勢はまったく予断を許さない状態であった。私にとって、毎日が忙しい日々の連続であり、ともすれば自己の事など忘却の彼方へ追いやられかねない状態であった。しかし、それが不満であったわけではない。むしろ、社会に多大な貢献を与える先端技術の開発に参加しているという自負があり、満足さえしていた。

あの日も充実した一日の仕事を終え、薬王寺ハイッでいつものように遅い夕食を済ませたばかりだった。突然、電話のベルが鳴った。時刻はもうすぐ11時になろうとしていた。こんな時間とは思いつながら受話器をとった。5分程で電話はきれたが、妻が心配そうに声をかけてきた。電話の内容はこうである。相手は高専時代の恩師であった。高専に欠員ができたのでこないかということであった。私は即答できないので、考える時間がほしい旨を伝えて、5月の連休に恩師に会う約束をしたのであった。連休まであと約一ヶ月である。私と結婚して一ヶ月程の妻は大いに考え悩んだ。私と妻の郷里は和歌山であった。その上、妻の実家は高専のある御坊市内にあった。私達のそれぞれの両親は子供達を世に送り、すでに夫婦だけで生活していたので私達は心配であった。収入の心配もあった。心務員の給与は少ないのでは……。はたしてやって行けるのか。さらにこれらにもまして仕事への不安もあった。今の仕事は厳しいがやりがいもある。しかし高専ではどうか。

多忙と不安の交錯した日々が続き、ついに連休はきた。普段なら楽しいはずの連休である。しかし、今回ばかりは胃に鉛でも飲み込んでいるかのような気持ちでの和歌山帰行であった。いくつもの不安が私の体内に蔓延していた。明確な結論を出せぬまま、私は恩師と対座していた。しかし、一時間程の会談の後、私は高専行きを了承していた。不安が消えたわけではなかった。恩師が私を推薦してくれたということが決心させたのであった。期待されて呼ばれたのだからやれるだけやってみよう。

私は、上司に私の意志を伝えた。仕事の関係上、その年の12月に退社することが認められた。残務整理等を済ませた後、高専には61年1月に着任した。現在も不安のいくつかは消えていない。しか

し、とにかくやれるだけやってみようという気持ちで努力している次第である。

「若手中堅社員!？」

B83301 宇野 健治

(株)東海理化電機製作所

同窓会誌の原稿依頼を受け、何を書こうかなと考えているうちに締切が近づいてしまい、結局誰もが関心のある近況報告を致します。

'83年春に学部卒で大学を出て、社会人となり、早くも四年半経ちました。私の勤務する会社は、トヨタ自動車を主とする電装品製造メーカーで、スイッチ類やシートベルト、錠が売上げの多数を占めています。皆さんが自動車を運転される時、操作される各種スイッチのほとんどがそれに当ります。私は現在、そのスイッチの品質向上、コストダウン、高機能化、フィーリングの向上等を旨として、開発、設計業務に携わっています。いつのまにか、私の下に二人も部下(?)が付き、一応中堅社員(?)といったところです。

大学時代は電子デバイス研究室に所属して、将来は半導体に関する仕事をするんだと考えていたのですが、全く違う分野に進んでしまった状態です。学部卒だけでは仕方ないことかもしれません。入社当時は大学院へ進まなかった(進めなかった)ことをこだわり続け、「院卒に負けるものか!」と、仕事に打込み過ぎて、体を壊したこともありました。現在は、仕事の要領を得たことや、社内のあれこれがわかってきたためか、昔ほどのモーレツぶりはありません。長い道のり、マイペースです。

次に——結婚して一年半になります。26で結婚しましたから、現在では少し早い方かもしれません。同期の大卒入社組でも早い方でした。早くは結婚しないだろうと思われていた私でしたが、ふとし



た出逢いが結婚へと導いてくれました。高専時代の先生で、「バスと金と女は待っとれば来る!」と豪語されていたのは本当だと実感しました。

まだ二人なので、共稼ぎです。妻は幼稚園に務めており、今、私がこの原稿を書いている前で、園児らの作品をまとめています。かなり忙しい様子で、それが由、喧嘩もしょっちゅうです。それだけ夫婦の仲が良いと言われておりますが……。そんな訳で私の近況報告を終わります。

M85307 浦岡 行治

松下電器

豊橋技科大の先生、そして学生の皆さんお元気ですか。私は六十年、服部研究室を卒業し、現在松下電器、半導体研究センターに配属され、同期の宮崎研究室出身の山内君らとともに、16MDRAMや32ビットマイクロプロセッサの研究開発に精を出しております。

私自身はまだ入社3年目で、何も後輩の方々のためになることを書いてあげられませんが、最近考えることを書いてみたいと思います。

私の職場は自分のしたい研究を自由にさせてもらえ、十分な成果はまだ出ていませんが、毎晩遅くまで、忙しい日々を送っております。しかし、その反面、自分で責任を負わねばならず、研究室で教えていただいていた頃がいかに気楽だったか痛感しております。

私は席が、信頼性グループということで、設計やプロセスグループと常にコンタクトをとらなければならず、人間関係を大切さを感じます。まわりにはそれぞれの仕事のプロがいますので、その人に頼めるかどうかは、自分の仕事に大きな差が出てきます。従ってその人に頼むためには、自分にも何かその人のためにできるものを持っていないければなら



ず、常に「Give and Get」を忘れてはいけません。やはり、一番面白いのは人間であり一番悩むのも人間関係です。とにかく、自分一人ですることは非常に限られていますので、いかに要領よく仕事を進めるかはいつの場合でも考えていなければなりません。しかし、こういったことは社会に出て身につければいいことで、学生の間は、基礎的なことをしっかりと身につけ、自分で情報を見つけ出して考える力をつけてほしいと思います。私もよく研究室の先生にしかられましたが、社会に実際に出て強く感じます。えらそうなことを書きましたが、自分に常々いいきかせていることです。

最後に、卒業後も永くつきあえる友人を見つけ、そして、楽しいことばかりをさがさないで、いろいろ苦勞してほしいと思います。良き友人と苦勞した経験が学生時代の一番の財産ではないかと思えます。

豊橋技科大の先生方や学生の皆さんの御活躍を心から、期待しております。頑張ってください。

「初めての転職」

M82424 吉田 幹夫

三菱電機(株)

私は入社以来汎用計算機の基本ソフトウェアの開発に携わってきました。この仕事は私が大学院へ進学する際にどの講座に入るかを決めてからの夢で、入社当初からこの夢がかなったわけです。しかし、私の場合は学生時代に基礎的な技術すら学んでいなかったため、入社後必死になって技術力の強化に力を注いできました。入社5年経った4月、やっと人並みに仕事ができるようになったと思ったところに転職命令が発せられました。転職先については、今までの鎌倉から大阪へと実家の名古屋へも近いことと、仕事の内容も開発からシステムエンジニア(SE)へと極端な違いはないと考えていました。

ところが、実際は思っていたより厳しいものでした。それは精神的なプレッシャーです。第1に、私に対する期待の大きさです。当然かもしれませんが、開発に従事していた人は自社の製品知識に熟知しているということです。私だけかもしれませんが、開発という職場にいると自分の担当分野に重点を置き他の分野に目が届かないのです。このために、連日質問責めに合いました。第2に、SEは職業柄お客様と直接接する機会が多いため、自社製品

に対する評価が耳に入り、特にお客様に迷惑をおかけしている場合、開発の責に起因するケースではまるで自分が悪いような気になったものです。

現在ではSEという仕事にも慣れ、自分の仕事(技術)の幅が広がってきたような気がします。また会社に対しても、こういう自分の姿に対して感謝したい気持ちです。このように思う事で仕事にも励みが出てきます。

私は、現在でも開発の仕事を手放す訳ではありません。近いうちにまた戻れることを夢に見ています。その時のためにも、現在の仕事の中にも開発の経験を生かし、また現在の仕事で得た成果を開発へフィードバックできるように頑張るつもりです。

「思いつくままに」

B82509 松本 昭

鳥取三洋電機(株)

入社して、まず、驚いたことは女性の多さであった。その当時は全従業員400名の内、約70%が女性であり、大学時代あまり女性に囲まれることがなかったため、どの様に対処すればよいのか戸惑ったものである。現在、入社して6年目に入り、充分過ぎる程慣れ過ぎ、楽しい日々を送っています。

私は現在、鳥取三洋電機デバイス事業部にて、LCD(液晶ディスプレイ)に関する仕事をしています。LCDは、主にパソコン、ワープロの画面、液晶テレビ等に应用され、現在グリーンと伸びている分野です。入社した当時はLSIゲーム(液晶のゲーム器¥5000~6000)がブームであり、月の残業が50時間以上あり、たいへん忙しい日々でした。現在では、パソコン、ワープロの画面が主で、小型、転量といった液晶の特色を生かし、たいへん好調であり、工場の中はたいへん忙しい状態です。

このLCDの開発スピードはたいへん速く、1年



毎に新しいタイプの画像様式、新しい開発目標が次々に現われてきます。そのため、その開発目標に対して他社よりいかに速く、良い製品を出すかがたいへん重要であり、皆様苦勞しています。開発目標を達成するためには多くのやり方があるわけですが、どの方法をどの様に行なっていくのか、また、結果に対してどの様に対処していけば良いのかが、たいへん重要な点です。その対処の仕方が会社の方向を決めると言ってもいい程難しいものです。私の上司に、この対処のうまい人がおられ、いつも感心ばかりしています。社会人となり、問題に対しての対応の仕方というものが本当に難しいものだと言っています。

さて、話はごろっと変わりますが、休日は緑に囲まれた大自然の中で多にテニスを行なっています。会社に入り、太陽の下で何かやりたいと思いテニスを始め、現在、会社のクラブと一般のサークルに入っています。一般のサークルでは、公務員、会社員、OL等会社と全然関係のない人と行なっているため、いろいろな分野の話を聞けて楽しくやっています。しかし、こちらは主にお酒を飲むことの方が多いですね。現在では勝つテニスから、楽しむテニスに移行中ですので、女性には充分親切に教えます。

思いつくままに書きましたが、鳥取へ来られる方がありましたら、御一報下さい。(TEL 0858-35-3482 自宅)

それでは、母校の発展及び皆様の健康、御活躍を期待します。

M84529 北 島 敏 夫

徳山曹達(株)



早いもので、私が社会人になって、3年の歳月が過ぎた。その間、結婚、転勤、長女の出生など、私生活に於いても随分と変化があった。

就職で、一年半、山口県徳山

M85520 吉 富 一 之

出光石油化学(株)

市という田舎で勤務した後、転勤ということで、今は神奈川県藤沢市にある研究所に勤務している。所謂、湘南地方であるが、私の住まいや会社は、畑に囲まれた、田園地帯で、海までは、車で15分位かかる、長閑なところである。

仕事は、大学院時代にやったことの延長である。有機合成をしている。もっぱら、仕事よりも、研究所のテニス部に属し、夏は朝練、仕事が終わると白球ならぬ黄色いテニスボールを追い、今年は、軽井沢に合宿に行くなど、有意義に過ごしている。そんな私を、愚妻は、白い目で見て、愚痴ひとつこぼさず!? 冷たい視線を投げかけている。

ところで、今年の7月9日に長女が出生した。私も父親になったわけだが、仲々、実感が湧かなかった。愚妻は随分と強くなった。もともと強いのだが母親になって、本能的というか、動物的に強くなったようだ。男にとって、夫から父親になることは、肉体的変化を伴わず、精神面だけだから、大変なことだが、女は、10ヶ月間、胎児を育み、生み、育てるのだから、妻から母になるのは容易なことのように思われる。

しかし、我家は核家族、夫婦二人の所帯である。ある程度、夫も協力しないとやっていけない。それで、新米パパとしては、風呂に入れることだけは愚妻から命じられている。パパ業も1ヶ月を過ぎ(愚妻が3ヶ月近く実家に帰っていた為)、娘も、もうすぐ3ヶ月、体重も生まれた時の倍になり、首もすわりつつある。表情も豊かになり、機嫌の良い時などは、わけのわからない言葉を発している。目も見える様になり、母親と父親の区別もつくようになった。子供の成長には、目を見張るものがある。この3ヶ月、自分は、まったくといってよい程、進歩していないのに。

これから、会社でも私生活に於いても、随分と責任が重くなって来るであろうことをひしひしと感じる今日此頃である。



私は、現在、出光石油化学(株)の千葉工場に勤務している。主たる業務は、千葉工場にある装置の解析を行なう事である。つまり、会社に入って“エンジニア”になってしまったのである。皆様も御存知の様に、入社当時は、何をやらなければならないのかは、まったくわからない。私は、研究者として会社に入ったつもりなのだが、いざ入社してみると、ポリマー装置を担当し、大学時代に得た知識はまったく役に立たない。一からスタートしなければならなく、入社3年目にしてやっと落ち着いた。

ここまでは、2、3日前に書いたのだが、突然、課長から、今日、「来週月曜日から、3年間、徳山工場に行ってくれ。」と言われてしまった。サラリーマン(ましてや、独身)は、つらいもので、明日は、どこへ行かされるかわかったものではない。

徳山工場で、新しい装置の設計プロジェクトが発足し、メンバーとなってしまったのである。私は、正直な所、胸をわくわくさせている。一つの装置を設計するという事は、短期間に、大変多くの事を学べるからである。そして、その装置が稼動した時、エンジニアとして、何とも言えない感動を覚えるらしい。私は、その機会を若い時に味わう事が出来る事に感謝している。

最後に、実感として、またこれで婚期をのがしてしまったとつくづく感じている。

M86511 佐 藤 讓

日本分光工業株式会社

豊橋を離れ、八王子に住みついて一年半になる。八王子といえ、この夏最高気温39.4℃を記録したことを覚えていらっしゃる方もいるであろう。

夏はとにかく暑い。豊橋が強風の地ならば、八王子は極暑の地というところだ。

さて、私は現在、分析機器メーカーである日本分光工業(株)のシステム開発部門に所属している。そこで、職場での近況報告を述べたいと思う。

システム開発。これをひと言でいえば、「市場あるいは、ユーザの要求を正確に分析し、システム(分析機器)として実現させること」である。システム開発の過程で、市場やユーザの要求仕様

(ターゲット・ドキュメント) が定まれば、あとは、物理、電気、化学、機械等の多分野にわたる技術力が結集され、一定のルールで統括されることで、製品は生まれてくる。

例えば、装置制御に関するソフトウェアの構築では、やるべき事は、はっきりとしている。即ち、関係者の人間関係はそれほど複雑ではなく、対機械という環境の中で、プログラム・コードは正しいか、間違いかのどちらかしかないのである。余談だが、バグを発見してその処理をした後の満足感と、コーヒ一杯の味わいは格別なものでもある。

しかしながら、そのターゲット・ドキュメントまでに至る過程が大変なのである。

世の中のニーズは時と共に変わるのは当然であるが、種々雑多で利害が相反するユーザの要求をうまくまとめ上げ、すべてのユーザに納得してもらう(難しい……)仕様を作成するのは、壮大な仕事である。時には、ユーザを巻き込んだ形で、部署間の敵対関係までを生み出してしまうことさえあるのが現実だ。

このような職種環境の中で、私は、ユーザから真に喜ばれる分析機器の開発を目指して、技術力の向上と共に、人間組織学的哲理を学びはじめています。

また、気分転換にと FEN (Far East Network) のラジオ放送をシャワーのように浴びながら、週末には奥多摩山麓を 4WD で駆け巡っているこのごろである。

M82633 吉 福 司

(株)日建設計

卒業して、早くも 6 年目を迎えています。同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

現在、私は、相変わらず(株)日建設計土木設計事務所に勤務しており、主として、橋梁、モノレール・新交通システム等の駅舎、その他大小土木構造物の設計を担当しております。大阪モノレール建設工事では、入社以来、7 駅の設計を行ない、現在、3 つの駅がその外観を見せ、2 つの駅は工事中です。設計のときは、かなりハードなスケジュールをこなし、辛い思いをしましたが、実際に、図面のものが空間の中に形を表わしてくると、喜びも大きいものです。まさに、設計者冥利につきる感じがします。

入社したての頃は、当然のことではありますが、上司の「あれやれ」「これやれ」の指示に従う毎日

で、早く指示する立場になりたいものと切望していましたが、しかし、いざ 1 ステップあがってみると、「あれやれ」「これやれ」の言葉は耳にしなくなったものの、何も言われずに仕事が回ってきます。2 つや 3 つの物件の担当はまだ余裕のうちで、気がつくと、6 つも 7 つも物件をかかえ、まさに、狂気の世界と化しています。朝、出社して、午前中は電話での対応、午後は施主との打合せと、息付く間もなく定時を迎えます。これからが、やっと仕事のできる時間です。そして、22 時 45 分、「閉館 15 分前」のアナウンスに、ようやく退社。忙しいながらも、どことなく充実感があるのか、なんとか続いております。

仕事の方の近況はこの辺にして、私生活の方の近況について若干スペースをさいてみたいと思います。会社勤めより、半月ほど長い結婚生活も、今だに 2 人だけで、安穩に暮らす毎日です。3 年前から、2 人そろってテニススクールに通い、日曜日は、テニスに明け暮れています。ストレスと運動不足の解消だけでなく、年代も、職場も様々な友人が大勢でき異郷の大阪で、楽しく愉快にやっております。6 年近くも大阪にいます、大阪弁も使うようになりました。しかし、私の鹿兒島弁、妻の三河弁も根強く、はっきりいって、言葉はめちゃくちゃです。今も、妻がせかします。「早く書きん」



ざっくばらん …And So On

「雲のち晴れの日曜日」

M82215 黒 沢 実

日産自動車(株)

子供をひざに乗せ、ペンを執ろうとするが、子供が邪魔をする。家庭は戦場だ。私の子供は今 1 歳。

私は、現在横浜にて、都会的感覚を味わっている。生後 20 歳まで茨城で大学は豊橋で暮してきた私が、何故敢えて、この仕事、そしてこの地を選んだのか、やっと 5 年が過ぎて、その理由が、ぼんやりと見えてきたような気がする。

この横浜には、ご存じのごとく、古くからの鎌倉や外人墓地、若者の常識である湘南やドルフィン、更に、将来はみなとみらい 21 が建設予定である。非常に話題に事欠かない地である。この片隅に、私が勤める日産自動車がある。最近入社した若者は、私とは違う。彼らは、週末にショットバーへ足を運び、ビリヤードの合い間に、カクテルを手にする。また、Be-1 に乗って湘南へ、彼女とアークヒルズへ……まさに新人類である。それにつられて、35 歳の先輩がマイケルジャクソンのコンサートへ行く。これらは、ライフスタイルが年代ごとに変化し、かつ互いに刺激し合い、「個性の多様化」の時代を迎えていることを意味している。今「感性を磨く」という言葉がはやっているが、このような時代を生きぬくには、やはり、感性⇄個性といったひらめきが必要と思える。

私の故郷には、2 階建ての家に住み、休みにはゴルフをする友人がいる。それに比べ、私は 2DK の社宅で、休みには時々テニスや野球が精いっぱい。しかし、私は、この地とこの生活を選ぶ。つまり、仕事では、小さな革命家として、社風の大きく変化する会社の中で、大企業ならではの「未知との遭遇」を期待し、私生活では、情報量が多く、かつ刺激の多いこの地を好む。これらが、日頃、私のライフスタイルを支えるベースとなるもので、今後も、この地で新しい感性を養っていくつもりである。

日頃、子供と遊べる機会の少ない私、子供にせかされてペンを置く。ワンパターン化しつつある私生活……私の子供は超新人類になるのでは……ちょっと気がかりであり、楽しみでもある。

「私の趣味」

M86211 栗 山 利 夫

セイコーエプソン(株)

「あなたの趣味は？」と聞かれる時、私はいつも「スキーです」と答えている。私にとってスキーは最高の喜びの一つを与えてくれるものである。

急な斜面を、コブの多い斜面を、不規則な斜面を、新雪の斜面を滑るのが私は好きである。自分にとって、より難しい斜面を滑り降りた時の気分は最高である。私は一つの斜面を滑る時、気持ちの上で斜面と勝負している。勝敗は、私が転倒するかスピードに乗れずに斜面に流されたり、止ってしまったりしたら私の負けである。だからと言って優雅にたらたらと滑るわけではない。その斜面をより早く、より大胆にハデに飛ぶごとく滑るのである。自分が転倒するかしないかのギリギリの状態の中で、目前にせまる状況を判断し対応し、その場面をクリアしていく。あるいは転倒寸前をリカバーしていく。その瞬間瞬間に何とも言えない充実感と興奮を私は感じる。そしてその連続であった斜面を滑り終えた時、気分はハイになり、一種の征服感に近い満足感を味わえるのである。そして再び前以上の満足感、興奮を得たいがため、次の斜面、より難しい斜面を求めて行く。あるいは、同じ斜面でもより難しく滑り降りるのである。

このような考えで、よりエキサイティングなもの



を求めて滑っているものだから私の滑りはきれいなカッコウではない。一説によると「熊が滑り落ちてくるような」という形容がピッタリだと言う。しかし、私はそれで良いと思っている。形やカッコウも確かに大切であるが、形ばかりに気を取られ、更なる奥にあるエキサイティングな部分に滑り込めないのは不幸だと思うからである。

今年の冬はさらにエキサイティングな滑りができるよ今から体を作っている。今年はどうな滑りができるか楽しみである。

「無 題」

M86321 豊 田 浩 則

フジテック株式会社



いつの日か、蟬時雨が蟋蟀の音色へと移ろいだのも気付かず、自分の殻の中で駄々をこね続けていた。永い酔いから覚めて、ふとふり仰いだ空を、秋茜の群舞を映じるスクリーンめいて、遙か大洋で死んだであろう鯨が本当に楽しんそうに悠然と泳ぎ去った。窓の下から曼珠沙華の紅、稲穂の金、六甲の山並の緑、空の蒼、整然と列をなす風景の色彩が子供等の喧騒と交錯して一種爽快な破調を成している。

振り返れば、この酔い覚めにも似た感傷をさり気ない日常の出来事として味わい得た頃が確実に存在した。時と戯れることが許されていた頃、偽りの自分を演じ疲れた時の安息の場において――。

技科大の白いキャンパスから南南西に数キロ、海岸線沿いの丘の上の何気ない一本の樹がそんな私の棲み家であった。其処へは、もとより道という道もなく、まして道のある周辺にも人影はなく、私はただただ孤独という幸福を満喫していた。砂利道に自転車を放り出す様に降りたち、夏草のおい茂る湿りを帯びた山肌にいどむ。独り、汗をかきかき崖っぷちを滑る光景は、第三者にとってはどれ程滑稽に映るであろうかと思うと何とも照れ臭いものだった。しかし、あの頃の私は、あらゆる風景の中でポッカーリ浮いちゃまっている今の私ではなかった。

暫く、呆けた様に水平線に向けて佇むと、やにわに海に向けてのびた枝に飛びつき、仰向けになるとまぶたを透かして眼球に陽を受ける。十五分程も、

背中痛みをこらえると、不思議に躰が枝の上で安定するのだ。あとはただ静寂があり、幸福があり、波の音の中で閉じたまぶたが赤や黒や青に移ろうのだった。

その時私は、夢も希望も愛すらもいらないと感じていた。翳かな心は波の音に抱かれて、ささやかな幻想と無とが去来する。

そう、その瞬間瞬間、私はその樹の枝の一本であり得たのかもしれない。

—— 酔筆御免。



同窓会事務局より会員の皆様へ

同窓会長

M83316 西 澤 一

同窓会も設立6年目にはいり、いよいよ来年は人間で言うところの小学1年生になります。まだまだ幼い子供で、「会員相互の親睦を図る」という本会の目的のための準備をしているに過ぎませんが、まわりの大人に助けられながらも、なんとか自立しようと頑張っています。今後の成長を長い目で見てやってください。

昨年度、大学関係者の多大なご協力により、初めての独立した会員名簿を発行することができました。多くの会員の皆様から注文を頂き、努力のこいがあったと役員一同喜んでおります。御注文くださった方、名簿は無事にお手元に届きましたでしょうか。ご自分の住所、勤務先等に誤りのあった方も多かったことと思います。名簿発行後に多くの会員から住所変更の連絡を頂きましたが、同窓会では、年1回の会報を通して修正情報をお届けするとともに、次なる会員名簿第2号をより正確なものにしたいと考えています。会員の皆様も、住所変更等がありましたらその都度同窓会までご連絡下さいますようお願い申し上げます。尚、会員名簿、大学の発行した十年史ともまだ残りが残りますので、申し込みの機会を逸して諦めておられた方々も、今からお申し込みください。

既に、会報第4号でご連絡申し上げましたように、同窓会発足当時に設けられた終身会費制度は、入会金と千円の年会費制に改められ、今年度より年会費を集めることになりました。同窓会の全ての活動は、会員の皆様の納める会費でまかなわれているという事実を思いだして、御面倒でしょうが速やかに会費を納入くださるようお願い申し上げます。尚、年会費未納の会員には、会報の発送、名簿の(有償)配布等は行えませんでしたのでご了承ください。

同窓会では、名簿発行を機会に会員名簿のデータベース化を始めています。本年度中には、この名簿データベースを利用して、各研究室単位に卒業生の名簿を配布できるよう作業を進めています。指導教

官の先生方や後輩の皆さん方から同窓会員への連絡の便宜を図ると同時に、各研究室に会員名簿更新のための最新情報を提供願うためでもあります。会員データベースの構築は、4系の大岩研究室の全面的協力で開始され、現在、会員担当(浜松地区)の役員が中心となって改良を続けています。このデータベース構築に協力してやろうという方がみえましたら、同窓会事務局までご連絡ください。(同窓会へのご連絡は、必ず郵便にてお願いします。)

ところで、会員の皆様の中には、同窓会に問い合わせ、注文等の手紙を出して1カ月以上になるが、同窓会からは音沙汰も無いと御立腹の方がみえるかも知れません。残念ながら現状では、少なくとも3から4カ月、通常は半年程度を返答に要するものと考えて頂かなければなりません。会員の皆様からの手紙等は、年3回の役員会で担当の役員に手渡されて初めて処理が始まるのであります。役員も自らの休暇をつぶしてボランティアで活動しているということを了承ください。但し、この現状が望ましいものであるとは我々も考えていません。もっと応答性の良いサービスを提供できるよう、本年2月頃より大学および在学生に協力を呼びかけてきました。学内に事務局を置き、在学生にはアルバイトとして事務を手伝ってもらえるよう、現在試行中ですので、徐々に改善されて行くものと思います。

同窓会報第4号からは、従来、新卒者のみから募集していた寄稿文を、広く全会員から募集することにしました。更に本号では大学の近況をより詳しく知って頂くため、学内刊行物から優れた記事の転載を行なっています。第4号以降の編集は、編集担当(名古屋地区)の役員が中心となって行なっています。

同窓会では、会員の皆様が積極的に活動に参加できるような会に育てて行きたいと考えています。近ごろのマイクロエレクトロニクスの発展は、この活動にも新たな可能性を与えてくれるのでは無いのでしょうか。役員会の活動に参加しようじゃないかという人は、近県の方に限らずとも是非ご連絡ください。また、同窓会活動に対する御希望、提案などございましたらどしどしお寄せください。

(S. 62. 10. 26 記)

* 会 務 報 告 *

I. 第 16 回役員会

1. 日時 昭和 62 年 5 月 17 日 (日)
2. 場所 技科大 D2-705 室
3. 出席 西澤, 鈴木伸, 山本一, 佐々, 西野, 中西, 塚本, 小山, 井田
4. 議事内容

(1) 昭和 61 年度活動報告

名簿 490, 十年史 330 を発送した。残りあるため, 引続き配布に努める。卒業記念パーティー主催を企画したが, 参加者不足のため中止とせざるをえなかった。学内組織手簿のため, 新役員の確保, 入会金の徴収状況が悪い。62 年度にて学内組織の充実も含めフォロー必要。会報 4 号を予定通り発送した。

(2) 昭和 62 年度活動計画, 予算案

研究室単位の名簿作成に着手する。名簿データベースの構築を会員担当にて行なう。年会費の徴収を開始する。役員人材の発掘を行なう。

(3) 大学側への協力依頼について

事務局設置, 名簿修正等への協力依頼を求めらる。協力依頼文を出す。

II. 同窓会顧問教官会議

1. 日時 昭和 62 年 9 月 17 日 (木)
2. 場所 技科大学課会議室
3. 出席 北村助教授, 小崎教授, 田所助教授, 亀頭教授, 中村助教授, 安田助教授, 定方教授, 工藤学生課長, 吉田課長代理, 沢田係長, 西澤

4. 議事内容

(1) 62 年度顧問教官会議の結成について

定方教授より, 卒業生名簿の発行に関して大学側と同窓会が協力してきた経過が説明された。今後も, 同窓会活動を援助するため顧問教官会議を結成することとなった。

(2) 同窓会活動への協力について

同窓会への援助は, 主として現在同窓会が進めている研究室単位の名簿を介した新情報の提供という形で行なう。

III. 第 17 回役員会

1. 日時 昭和 62 年 9 月 20 日 (日)
2. 場所 技科大 D2-705 室
3. 出席 江崎, 西澤, 山本一, 安藤, 生田, 後藤, 沢田, 塚本, 小山
4. 議事内容

(1) 理事増強と役員会組織の変更について

学内に事務局を置き, 代表として新たに江崎氏が就任。定期的な事務処理を円滑に行なうため, 同窓会職員として, 在学生に協力を求めることとした。会員, 編集担当とも新理事(沢田, 池谷, 後藤の各氏)が就任した。

(2) 会員名簿のデータベース化について

本年度の目標として, 研究室単位の名簿を完成させる。

(3) 定報第 5 号の発行について

予定通り進行。

(4) 学内の協力について

協力依頼文に答えて, 上記顧問教官会議が結成された。



* 会 計 報 告 *

昭和61年度決算 (昭和61年 4月~昭和62年 3月)

収 入	60年度よりの繰越金	5,052,615円
	会費 165名	825,000
	十年史・名簿売上げ	1,660,730
	利息	118,470
	計	

支 出	通信費	46,020
	事務用品	22,060
	交通費	55,020
	人件費	177,870
	卒業記念パーティー	30,200
	十年史印刷・発送	1,151,955
	会員名簿データベース	634,780
	会員名簿印刷・発送	949,100
	会報印刷・発送	721,810
	役員会経費	25,819
	計	3,814,634

差引残高 3,842,181

昭和62年度予算案 (昭和62年 4月~昭和63年 3月)

収 入	61年度よりの繰越金	3,842,181円
	入会金+会費2年分 240名	1,200,000
	年会費	465,000
	広告代 2万円×10社	200,000
	利息	100,000
	計	5,807,181

支 出	会報編集印刷発送	1,000,000
	通信費・事務用品	80,000
	設備費(PC1台ソフト)	700,000
	人件費	150,000
	事務依頼謝礼	200,000
	役員会経費	160,000
	予備費	100,000
	計	2,390,000

差引残高 3,417,181

* 昭和62年度同窓会役員 *

名誉会長	本 多 波 雄 学 長	監 事	西 野 達 也 (2系3期)	
顧 問	北 村 健 三 1系助教授	会 員	山 本 一 郎 (3系4期)	
	森 永 正 彦 2系助教授		沢 田 直 見 (4系5期)	
	小 崎 正 光 3系教 授		池 谷 玲 (4系6期)	
	田 所 嘉 昭 4系助教授		編 集	安 藤 智 明 (兼)
	亀 頭 直 樹 5系教 授			生 田 浩 之 (2系4期)
	中 村 俊 六 6系助教授			野 村 得 之 (3系4期)
	安 田 好 文 7系助教授	後 藤 康 男 (5系4期)		
会 長	西 澤 一 (3系2期)	山 本 正 幸 (1系5期)		
副 会 長	鈴 木 伸 治 (6系3期)	庶 務	鈴 木 伸 治 (兼)	
	安 藤 智 明 (6系4期)		佐 々 浩 司 (1系3期)	
事務局長	江 崎 尚 和 (2系1期)		竹 村 学 (2系5期)	
会 計	中 西 宏 文 (4系5期)		塚 本 式 彦 (3系5期)	
	井 田 民 男 (1系6期)		佐 藤 嘉 高 (5系5期)	
			小 山 利 浩 (6系5期)	

* 年会費納付のお知らせ *

会則改正に従い、下記のように年会費の納付を開始しますので、御協力下さいますようよろしく申し上げます。尚、当年度内に会費納入無き場合は未納会員として登録され、以後会報、名簿等の発送は会費納入まで停止いたします。

◎納入方法は、同封の銀行振込用紙にてお願いします。

◎会計の事務処理上、昭和63年2月末日までに振込みをお願い致します。

期	1	2	3	4	5
会費納付開始年度	昭和62年度		昭和63年度		
初年度会費	1700円	900円	1500円	1500円	900円
2年目以降	1000円	1000円	1000円	1000円	1000円
対象会員	57年修了 55年卒業 56 " " 57 " "	58年修了 " 卒業	59年修了 " 卒業	60年修了 " 卒学	61年修了 " 卒業

* 太枠内は今回支払い分です。

* 十年史・同窓会名簿追加注文の御案内 *

開学10周年を記念して、S61年に発行致しました、十年史・同窓会名簿についてそれぞれ約150冊、500冊が残っております。

開学以外の歴史を綴った十年史は予想を上まわる反響を呼び、300冊完売、その後も注文が増え続け増刷した後の残部数です。

同窓会では独立採算制をとっており、残部数はそのまま赤字として計上されてしまいます。

注文の機会を逸した方も含め、購入を希望される方がございましたら、下記まで葉書にて御注文下さいませようお願いします。

〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学内
豊橋技術科学大学 同窓会事務局
十年史・同窓会名簿 係

価格 十年史 = 3,000円
同総会名簿 = 2,000円

* 編集委員からのお知らせ *

編集委員では、会報掲載用の会員の皆様方の投稿を広く募集しております。

近況報告をはじめ、紀行文、随筆など、内容については、特に制限はありませんので、随時下記まで御送付下さい。

尚、これまでに原稿を依頼して未送付の方も、次回以降に掲載致しますので、執筆下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学内
" 同窓会事務局
同窓会誌 編集 係

* A4用紙、横書き、23字/1行として下さい
写真も添えていただければ幸いです。

編 集 後 記

同窓会報第5号をお届け致します。S62年以内に発送を目標としてきましたが、前号の経験を十分に生かすことができず、発行・発送が遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

まだまだ、同窓会組織及び会報等のサービス面ともに、至らぬ点の多いことと思っておりますが、役員一同、今後ともより良い同窓会運営を目指して、鋭意努力して参りますので、御了承下さい。

つきましては、同窓会のサービス・会報等につきまして、御意見・御要望等をお寄せ下さいませようお願いします。

最後に、本年も、会員諸氏のより一層の御活躍をお祈り申し上げます。

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総 則

第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事 業

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 会員名簿の発行
(2) 会報の発行
(3) 総会の開催
(4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会 員

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
(1) 正 会 員 豊橋技術科学大学学部卒業生で同大学大学院修士課程に在籍していない者
(2) 準 会 員 豊橋技術科学大学大学院および同大学学部在学学生
(3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職又は退職教官で、役員会において推薦された者
(4) 賛助会員 本会の目的を賛助する者で、役員会において推薦された者

第4章 役 員

第6条 本会に次の役員を置く。
(1) 名誉会長 (豊橋技術科学大学学長)
(2) 会 長 1名
(3) 副 会 長 2名
(4) 理 事 若干名
(5) 監 事 2名
(6) 評 議 員 各系各期1名
(7) 顧 問 若干名

第7条 役員は、次の各号に定めるところにより行う。
(1) 会長は、正会員のうちから役員会により選出する。
(2) 副会長及び監事は、正会員のうちから会長が推薦する。
(3) 理事は、正会員のうちから評議会が推薦した者及び会長の委嘱による若干名とする。但し、理事の過半数は正会員でなければならない。
(4) 評議員は正会員各系各期より1名推薦された者に会長が委嘱する。但し、各系各期は原則として学部卒業の時点でグループ分けするものとする。
(5) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員で役員会において推薦された者とする。

第8条 会長及び副会長の任期は3年とし、他の役員は任期は2年とする。但し、留任を妨げない。なお、任期終了後も、後任者が決定するまでは、その職務を継続する。

第9条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
3 理事は、庶務、会計及び会報等の編集事務を処理する。
4 監事は、本会の財産及び会計を監査する。
5 評議員は、重要な会務に参与する。
6 名誉会長及び顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて総会及び役員会に出席し、意見を述べることができる。

第5章 総 会

第10条 総会は、定期総会及び臨時総会とし、会長が招集する。
2 定期総会は、3年に1回10月に開催することを原則とする。
3 正会員の100名以上が、会議の目的事項を示してその開催を請求したとき。
4 会長は、総会を招集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
第11条 総会は、次の事項を審議し、議決又は承認する。
(1) 事業計画及び収支予算
(2) 事業報告及び収支予算
(3) 会則の制定・改廃
(4) その他、同窓会の運営に関し、重要な事項

第12条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決める。可否が同数のときは議長が決める。但し、会則の改廃は、出席正会員の3分の2以上の承認を必要とする。

第13条 総会の議長は、その都度正会員のうちから選出する。
第6章 役 員 会

第14条 役員会は、第6条第2号から第5号までの役員により構成する。

第15条 役員会は、会長が招集し、次の事項を審議する。
(1) 総会で決定された事業
(2) 総会への事業報告及び決算報告
(3) 総会に提出するその他の議案
(4) 特別会員及び賛助会員の推薦に関すること

第16条 役員会の議決は、役員会を構成する役員が出席し、その過半数の同意を必要とし、可否が同数のときは議長が決める。但し、出席できない役員は委任状をもって出席役員に議決を委任することができる。

第16条の2 役員会の議長は会長が務める。
第7章 会 計

第17条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄附金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じて、総会の議決により、臨時費を徴収することができる。

第18条 本会の会費は次のとおりとする。
(1) 入会金 3,000円
(2) 会 費 1,000円

2 会費の納入は正会員のみとする。
3 正会員もしくは準会員として初めて本会に入会するときには、入会金及び初期2年分の会費を納入する。

第19条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が卒業もしくは修了以前に学籍を離れた場合に限り、半年以内に請求があれば返納する。

附 則

正会員は、3年目から年会費を納付しなければならない。

本会則は、昭和61年10月12日から施行する。

第20条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

第8章 雑 則

第21条 本会則施行に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

附 則

1 本会則は、昭和58年10月9日から施行する。
2 会員は、住所、氏名、職業を変更の都度、すみやかに本部に通知しなければならない。

INAX



洗い方の差が、オシリに出ます。
 どうやらオシリも洗う時代になってきたようです。INAXのシャワートイレは、独自の垂直シャワー方式。ただ洗うのではなく、気持ち良くしつかり洗うことをめざして生まれました。特にシャワースプレーの角度や温度などに研究を尽くしてあります。オシリの限りなき幸せを毎日追求する、INAXです。

洗う力がハッキリ違う、垂直シャワー方式。INAXの発見です。

快感の洗浄力 INAXシャワートイレ

- ① 垂直シャワー方式だから、シャワーはオシリの真下から。きれいサツパリ洗ってくれます。
- ② ノズル穴が3~4つだから、シャワーはソフトで爽快なタッチ。マッサージ効果もあります。
- ③ 大型貯湯タンクだから、家族が多くても安心。湯温はいつも一定に保たれており、快適です。
- ④ 温風乾燥式だから、ペーパーを使わないで、オシリを気持ちよく乾かすことができます。



取付付け、カンタン INAXシャワートイレ HIシートタイプ
※カラーは13色(工事費別)
 ※ご使用中の便器に、取付工事が必要で取り付けられる。従来のシャワートイレとは、垂直シャワー方式などの機能も充実、カラーも豊富です。



スッキリと、一体型 INAXシャワートイレ MIコンソールタイプ
※カラーは15色(工事費別)
 ※生まれながらにシャワートイレ機能をもつ、便器との一体型。全ての機能がスッキリ内部に収まり、トイレ空間を明るく新鮮なデザインです。

同窓会会員カード送付のお願い

昨年度、会員名簿発行に合わせて、会員の皆様のデータベースの作成を行い、現在、それを基に各種作業に対し有効に活用しています。また、将来的には、会員諸氏からの問い合わせへの対応等、より肌理細かいサービスを行なっていく予定です。

しかし、今回の掲載分の会員名簿からもわかるよ

うに、同窓会事務局の力では自ずと限界があります。会員の皆様からの情報提供が、最も正確で有効な手段であり、転動等に伴う異動がありましたら、必ず綴じ込みの会員カードにて、御一報下さいますようお願い申し上げます。

株式会社 INAX 東京本部 東京都中央区京橋三丁目6番18号 Tel.(03)561-1710(代) 〒104 カタログのご請求、お問い合わせは宣伝部宣伝課へどうぞ。

●全国ショールーム一札線/(011)241-1225 仙台/(022)265-1710 高崎/(0273)25-1257 宇都宮/(0286)34-2133 大宮/(0486)51-1791 東京/(03)562-1710 千葉/(0472)22-1701 横浜/(045)242-9290 松本/(0263)36-7410 静岡/(0542)51-1701 名古屋/(052)971-2714 新潟/(025)228-1701 金沢/(0762)62-1701 京橋/(075)231-1716 大阪/(06)532-4001 神戸/(078)221-7717 岡山/(0862)22-0155 徳島/(0886)26-1703 松山/(0899)31-5730 高松/(0878)21-1782 松江/(0852)23-3503 広島/(082)227-1701 福岡/(092)471-1700

◇ スクールカラー



大学のスクールカラーが決まりました

開学10周年記念事業の一つとして、スクールカラーを選定することになり、学内で検討した結果、その用途が、主にスポーツ大会を始めとする諸行事であることから、各クラブの総意に基づく色彩を採用するのが適当であるとの判断により、本学各クラブの連合組織である「総部会」に依頼したところ、各クラブ代表者会で相談の結果「若草色」の提案があったので、これをスクールカラーとして選定しました。

発行	豊橋技術科学大学同窓会
発行年月	昭和63年1月15日
印刷	㈲三愛企画